

的外

みのる法律事務所
令和7年6月第422号



みのる法律事務所
弁護士 千田 寛
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL:0191-23-8960
FAX:0191-23-8950

い な べ ん だ べ ん く
田舎弁護士の駄弁句

189



へい き ん じ ゅ み ょ う こ よ め い
平均の 寿命を超え 余命はと

見れば7年 楽しむだけぞ



令和7(2025)年6月1日
あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

平均寿命とは、生まれたばかりの赤ちゃんの平均余命です。日本の令和4(2022)年の簡易生命表によると、男は81.05年、女は87.0年となっています。平均余命は、83歳の男は、7.21年となっています。

令和7(2025)年5月20日(正しくは19日)で83歳となった身としては、平均寿命はすでに超え、平均余命は7.21年となりました。

このことを再確認したら、「余命は楽しむだけ」ということを改めて確信するに至りました。余命ということばが、「今この世でいっしょに生きている仲間と楽しみ尽くさなければならない」という思いを強く意識させてくれました。

年寄りとなり、余命は一日一日少なくなっていくことを強く意識させられました。1日だって、1時間だって、1分だって、1秒だって楽しまなかつたら勿体ないのです。多少くらい体調が悪くたって、引きこもりは駄目です。

「余命」ということばは、「あと何年しかない」ととらえるとネガティブ(消極的)なことばとなりますが、「あと何年生きられる」ととらえるとポジティブ(積極的)なことばとなります。

何事も考え方です。心の持ち方次第ということになります。余命はポジティブにとらえましょう。余命を楽しみましょう。

だべんぼん

駄弁本

ちり つ

塵も積もって 山となる

ここまでやれて ほっと一息



令和7(2025)年6月1日

あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

「生涯^{しょうがい}100冊の本を出したい」と語りました。還暦^{かんれき}の祝いの席で「この先の夢は何か」と問われて、そう答えました。突然の質問でしたので、咄嗟^{とつさ}にそう答えました。どこかにそういう思いがあったのかも知れません。

無駄^{むだ}なおしゃべりレベルの冊子がほとんどですが、冊数^{さつすう}だけは100冊の夢を大きく超えて、間もなく186冊となりそうです。

「内容^{ないよう}は、ないよう」という駄弁本ですが、ここまで出来たのは、長く生きているからです。現代医学や薬学や栄養学などの進展^{しんせん}によるものであることは間違いありませんが、まわりの人に恵まれ、仕事に恵まれ、some money^{サム マネー}に恵まれたからです。これらの一つでも欠けていたらこんなことはできません。

①健康、②脈、③仕事、④ some money^{サム マネー}がなければ、できなかったはずです。それらに恵まれたからこそできたことです。

駄弁本でも、数^{かず}だけですが生涯目標^{もくひょう}の倍近くも発行できたことに気が付き、ここまで生かされてこれたこと、いい人に出会えていること、いい仕事に出会えていること、いくらかの金を稼^{かせ}げていることに対して、改めて感謝です。そんな思いがして、なんだかほっと一息ついています。

何事も積み重ねですね。これからも一瞬を大事にして、駄弁本を書き続け、塵の山を少しでも高くしてみます。

『田舎弁護士の駄弁本』について

この事務所便り『的外』は、今回の令和7年6月号で、第422号となります。第1号は、平成2(1990)年5月でした。第1号から第422号まで35年2ヵ月にわたり、1度も遅れることもなく発行し続けることができています。これは偏^{ひとま}に、この事務所便りをお読み下さっている皆様のおかげです。改めて心底よりお礼を申し上げます。

この事務所便りをお読み戴いている方に知らせたいとの思いで、田舎弁護士の駄弁本を書き続け「生涯100冊の本を発行したい」という夢は既に達成し、200冊に近づいています。これもこの事務所便りをお読み下さっている皆様のおかげです。ありがとうございます。

今回は、『田舎弁護士の駄弁本』について述べてみたいと思います。近日中に『田舎弁護士の駄弁本概説』という駄弁^{がいせつ}本を出すつもりですが、そのデッサン(下絵)を書いてみます。お付き合い戴ければ幸甚です。

『駄弁本』という通り、どの本もその内容は無駄なおしゃべりレベルということになります。おしゃべり好きな田舎弁護士が、その時々^{しやう}に思い付いたことを書いた本です。ですから『駄弁本』と称しているのです。そんな駄弁本でもこれだけの冊数となりそれを積み重ねますと、文字通り「塵も積もれば山となる」ということば通りで、駄弁本の塵の山ができました。

『いなべんの駄弁本』には主義主張など全くないのです。宗教的にも哲学的にも政治的にも学問的にも、こうでなければならないという主張は全くないのです。その時々^{しやう}の思い付き、つまり突然心に浮かんだ考えを、その時の状況の中で書いてきただけなのです。

何の学問も趣味もなく、信仰心も主義主張ありません。「あなたのやってみたい夢はなんですか？」と、ある集まりで質問され、何か答えなければならないという状況の中で、深く考えることもなく「本を発行してみたい」と答えたことがあり、その後そう言った手前何冊かの駄弁本を発行しました。

かんれき

還暦のお祝いの席上で「これからの人生の中でやりとげたいことは何か？」と聞

かれ、この時もその場の思い付きで、「生涯 100 冊の本を発行することです」と答えてしまいました。そんな質問が出るとは考えていなかったのですが、突然そのように聞かれて、とっさにそう答えてしまったのです。ですがそういう思いは、どこか心の奥にあったのかも知れません。

「嘘から出たまこと」ということばがあります。はじめは嘘でも、言ったことがたまたまほんとうになってしまうことですが、まさにそれです。平成 29(2017)年 10 月 10 日に、100 冊の駄弁本を発行できたのです。

さらに 8 年経った今日では、179 冊の駄弁本を発行できました。駄弁本という塵が積もって山となりました。いま印刷製本中の駄弁本もあります。駄弁本の塵の山はもっと高くなりそうです。近いうちに 200 冊になりそうです。

塵など山となっても何の役にも立ちません。そのように思いながら駄弁本を書き続けているのです。そのスピードは年々加速しています。なんでこんなことをしているか自分ながら不思議です。ですが、駄弁本書きは毎日続いています。無意識に、空気を吸っているように駄弁本書きをしています。

世の中には不思議な方もおられ、「先生の本のファンです。最新本は7回も繰り返して読みました」とか「先生の本のおかげで力をもらいました。何もやる気がなくなっていました、先生の本を読み生きる力をもらいました」などという手紙とその土地の名物などを送って下さる方が少なくないのです。

その都度「誰も読んでくれるとは思っていないだけに、昇天するほど嬉しい」という自分の気持ちを素直に述べた手紙をお返ししています。そこからはじまり、「朋」と呼べる仲間が大勢できました。

このような方に背中を押してもらっていることは間違いありません。このような方が全国におられ、その方達のおかげで、ここまで駄弁本の発行を続けてこれました。このような朋に感謝あるのみです。

このような人との出会いがここまで駄弁本を出せている大きなエネルギー源となっているのです。そのような出会いが楽しくて、それを期待してこんな駄弁本をどんどん書いているということです。

駄弁本を書いている間は楽しくて夢中になります。駄弁本を書き始めた頃は、夜中の1時や2時にトイレに起き、そのままベッドに戻ると過去の悔いや未来へ対する不安が浮かんで眠れなくなり、この時間帯は辛い時間帯となっていたのですが、ベッドに戻らないで駄弁本を書き出したら嫌なことなど浮かばなくなりました。

ものを書く時は書くことに集中しなければ書けません。余計な考えは入り込むことはありません。集中して書いていると、3～4時間もすれば必ず眠くなります。眠くなったらすぐにベッドに戻ります。すぐに深い眠りに入ってしまいます。嫌なことが浮かんでくる隙間がないのです。

これこそ老人が眠れない時の対策としてはベストだと気付きました。それからほとんど毎日、夜中に駄弁本を書くことが習慣となりました。毎日 3～4 時間も書いていれば、駄弁本という塵も長い間には山となります。そんな山を見て「よくやったものだ」などと自画自賛という思いが湧くこともあります。それよりも「運がよかった」という思いが湧いてきます。「平和だったのだ」という思いが湧いてきます。

その上思いもかけないような方から、思いもかけないようなありがたい感想が寄せられたりしますと、「幸せだ」という思いが湧いてきて、駄弁本を書いている時間はより楽しい時間となります。

駄弁本書きに夢中となり、薬を飲むのも忘れたり、風呂に入るのも忘れたりすることは、いつものこととなっています。駄弁本を書いているとすぐに熱中して、我を忘れてしまうのです。死ぬことも生きていることも忘れているのです。このような時間を持てていることは幸せです。それができていることに心から感謝です。健康と、まわりの人と、平和と、サムマネーのおかげです。

「先生は弁護士として超多忙であることは、この地方では知らない人がいないのに、そんなに忙しい身でありながらどのようにしてあんなに沢山の本を書けるのですか」とか、「寝る時間もないでしょう。大丈夫ですか」などという質問は多くの人から寄せられます。「本を書くのは、息を吸ったり吐いたりしているのと同じで、何の努力もしていません。ですから特別に疲れることなどありません」と正直に答えるようにしています。

呼吸は無意識にしていますが、駄弁本書きも呼吸と同じで無意識にやっています。

特別な努力も苦勞もしていません。生きる上で最も大事な呼吸は無意識にやっています。駄弁本書きも無意識にやっています。

「まるで仙人のようですね」などと言う人もいますが、仙人にはなれません。仙人は山の奥に入って修行を積み、不老不死の術や神通力^{じんつうりき}を身に付け、欲がなく、霧や霞^{かすみ}を食べているとのことですが、欲は人一倍強く、食欲は若い者に負けてはいません。肉や魚は毎食欠かせません。酒は大好きです。大福なども大好きです。

仙人どころか誰よりも欲が強く、強^{ごう}突くジジイです。非常に欲張りで頑固^{がんこ}なジジイであることは自分が一番よく知っています。やりたいと思うことはやらないと気がすまないのです。駄弁本書きは、やりたいことの代表で、目が覚めたためたら毎日 3～4 時間は必ずやらなければ息を止めているようで苦しくなるのです。駄弁本書きは自分のやりたいことをただやっているだけで、信念も覚悟もないのです。

ですが 83 年間も長く生かさせてもらい、56 年間も弁護士として紛争解決^{じふ}のための生活に明け暮れてきたため、それなりの生き方のコツを掴みつつあると自負しています。この頃は身の程をわきまえず、そのコツを世の中の人に教えたくて、以前よりスピードアップさせて駄弁本を書き続けています。

これから先も、その時々にかきたいと思うことを書いていだけですが、今後どのような方向に進むべきかを考えるために、この機会にこれまで発行した駄弁本を見直してみます。これまでいづどんな駄弁本を発行したかを確認するために、『田舎弁護士の駄弁本のタイトルと発行日の一覧表』を事務局に作ってもらいました。

まずその一覧表を見て、これまで田舎弁護士として発行した駄弁本で何を言いたかったのかを自分なりにまとめてみたいのです。それを『田舎弁護士の駄弁本概説^{がいせつ}』という駄弁本にして発行してみたい気がしてきたのです。

それを見れば、これまで駄弁本で言いたかったことが分かったと同時に、これから書く駄弁本はどういうものにすべきかが見えてきそうな気がするのです。いま書いている『生き方のハカリ』という田舎弁護士の駄弁本シリーズも、その後に書きたいと思っている『警鐘－危険を知らせたいのです－』という駄弁本シリーズも、無意識ではあっても田舎弁護士の生き方の流れに乗っていることが分かるのではないかという気がするのです。

『田舎弁護士の駄弁本』は、これまでもその生き方に添^そっているものであり、これからその生き方に添って書き続けることになるような気がするのです。田舎弁護士の駄弁本は、田舎弁護士の生き方そのもののなのです。『田舎弁護士の駄弁本概説』を書くことによって、田舎弁護士を名乗っている自分の生き方が見えてくるような気がするのです。

『田舎弁護士の駄弁本概説』というタイトルの駄弁本を書くことによって、田舎弁護士が世のため人のために知らせたいことは何かが見えてくるような気がするのです。これから書きたい田舎弁護士の駄弁本は、どういうものかがわかってくるような気がするのです。

いつものことですが、みのる法律事務所のスタッフの力を借りて、これまで発行した駄弁本の一覧表を作成し、それを見直し、これまで何を伝えたかったのか、これから何を伝えたいのかを見極めてみたいのです。そこからなにかが生まれ出る筈です。何かをやれば、何か生まれ出る筈です。何が生まれるかまずやってみることにします。みのる法律事務所の出版担当のスタッフが、『田舎弁護士の駄弁本のタイトルと発行日』という一覧表を作成しました。添^{てんぷ}付しておきますので、斜め読みでもして戴ければ幸甚です。この事務所便りをお読み下さっている皆様を意識して、田舎弁護士の駄弁本は書いています。これからもよろしくお付き合いください。 合掌!!



田舎弁護士の駄弁本のタイトルと発行日の一覧表

令和7（2025）年6月7日現在

No.	タイトル	発行日
1	わかりやすい法律 夫婦・親子・兄弟編	1979. 7. 20
2	わかりやすい法律 夫婦・親子・兄弟編（その2）	1981. 7. 1
3	わかりやすい法律 民法総則 1	1986. 3. 22
4	わかりやすい法律 民法総則 2	1986. 5. 17
5	わかりやすい法律 民法総則 3	1986. 8. 1
6	わかりやすい法律 民法総則 4	1987. 2. 21
7	わかりやすい法律 民法総則 5	1987. 12. 10
8	体験を通じて思うこと（的外1）教育編 その1	1988. 2. 20
9	体験を通じて思うこと（的外2）教育編 その2	1988. 11. 26
10	わかりやすい法律 物権法 1	1989. 1. 21
11	わかりやすい法律 物権法 2	1989. 6. 10
12	わかりやすい法律 物権法 3	1989. 8. 21
13	体験を通じて思うこと（的外3）教育編 その3	1991. 10. 5
14	変革の中の弁護士 一小都市の弁護士業務に関する体験的一考察一	1992. 11. 25
15	体験を通じて思うこと（的外4）事業編 その1 一倒産する中小企業経営者のタイプ一	1994. 4. 20
16	体験を通じて思うこと（的外5）事業編 その2 一中小企業経営者のあり方と心の持ち方一	1995. 6. 30
17	実務からの法律学 一小都市における弁護士の対人関係に関する体験的一考察一	1995. 12. 31
18	弁護士が明かす農協と農民 一歪んだ関係 知られざる“農協金融”のカラクリ一	1997. 2. 1
19	岩手弁護士会史 一岩手の弁護士一	1997. 11. 20
20	弁護士の農協裁判レポート 一大型負債の責任者は誰か一	1999. 2. 26
21	わかりやすい法律 一担保物権法一	1999. 8. 24
22	田舎弁護士 一地方都市に生きるリーガルマインド一	2000. 8. 25
23	ドキュメント医療過誤事件 一弁護士の医療裁判レポート一	2001. 11. 22
24	あなたならどう裁く 一農協裁判編一	2003. 7. 31
25	田舎弁護士の大衆法律学 民法総則の巻 一民事裁判のプレーヤーである“大衆”のための法律学一	2004. 7. 28
26	田舎弁護士の大衆法律学 保証の巻 なきけ あだ あだ なきけ 一情が仇、仇は情一	2005. 9. 1
27	田舎弁護士の大衆法律学 刑法の巻（その1）常識がハカリ一裁判員となる日のために一	2006. 3. 21
28	いなべん物語 1 一終戦の巻一 わが家族の段	2006. 8. 31
29	田舎弁護士の大衆法律学 憲法の心 一改正権者のあなたに知ってほしい一	2006. 11. 30
30	減量で、糖尿病と高血圧が治った 一生活習慣病は、患者も主治医一	2007. 4. 28

31	いなべん物語 2 ―終戦の巻― わが隣人の段	2007. 8. 31
32	食事療法は、奇跡の療法 ―生活習慣病は、自分で治す― (ダイジェスト版)	2007. 12. 20
33	食事療法は、奇跡の療法 ―生活習慣病は、自分で治す―	2008. 3. 25
34	生活習慣病予防・治療のための食事のめやす ―何を、どれだけ、食べたらよいか―	2008. 8. 31
35	読まなくてもいい本 ―私達が、糖尿病を治した食事―	2008. 12. 28
36	読まなくてもいい本 ―私達が、高血圧を治した食事―	2009. 5. 15
37	私達、患者が伝えたい ―出浦先生の食事療法の教え―	2009. 5. 15
38	私達、患者が伝えたい ―出浦先生の食事療法の教え― 東京出版記念講演会 弁護士千田實講演録	2009. 12. 20
39	法律事務所の事務員が答えた本 ―借金問題で悩んでいる方のために―	2010. 1. 25
40	読まなくてもいい本 ―私達が、透析を延ばしている食事―	2010. 5. 15
41	患者の目、患者の耳、患者の口	2010. 7. 20
42	田舎弁護士の大衆法律学 相続の巻 (上) ―火種・足枷― ひだね あしかせ	2010. 10. 31
43	大震災・巨大津波を詠む	2011. 8. 25
44	兄 庶民の戦中・戦後史 第1巻 ―幼年時代―	2011. 11. 30
45	法律事務所の事務員が答えた本 ―遺産を残す方のために―	2012. 2. 20
46	食事療法を詠む	2012. 5. 30
47	患者とその妻の腎臓病体験記 ―ダイジェスト版―	2012. 9. 28
48	患者とその妻の腎臓病体験記 (第1巻) 大事なことを知らなかった―	2012. 11. 29
49	患者とその妻の腎臓病体験記 (第2巻) こんな症状が出た	2013. 2. 22
50	患者とその妻の腎臓病体験記 (第3巻) 薬物療法	2013. 4. 26
51	患者とその妻の腎臓病体験記 (第4巻) 食事療法	2013. 6. 27
52	患者とその妻の腎臓病体験記 (第5巻) 人工透析療法	2013. 8. 30
53	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第1巻 戦争の放棄 (その1)	2013. 9. 30
54	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第2巻 戦争の放棄 (その2)	2013. 10. 25
55	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第3巻 戦争の放棄 (その3)	2013. 11. 28
56	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第4巻 戦争の放棄 (その4)	2013. 11. 28
57	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第5巻 戦争の放棄 (その5)	2013. 12. 20
58	患者とその妻の腎臓病体験記 第6巻 生体腎移植療法	2014. 1. 17
59	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第6巻 戦争の放棄 (その6)	2014. 2. 21
60	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第7巻 戦争の放棄 (その7)	2014. 3. 28

61	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第8巻 戦争の放棄（その8）	2014.4.25
62	実務民事訴訟講座〔第3期〕第1巻 民事司法の現在	2014.4.30
63	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第9巻 戦争の放棄（その9）	2014.5.28
64	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第10巻 戦争の放棄（その10）	2014.6.27
65	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第11巻 戦争の放棄（その11）	2014.7.25
66	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第12巻 戦争の放棄（その12）	2014.8.28
67	田舎弁護士の大衆法律学 相続の巻（下）―伝家の宝刀―	2014.9.26
68	法律事務所の事務員が答えた本 ―遺産をもらう方のために―（相続の下巻）	2014.10.30
69	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第13巻 戦争の放棄（その13）	2014.10.30
70	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第14巻 戦争の放棄（その14）	2014.11.28
71	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その壱）―総論―	2014.12.26
72	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その貳） 第1・2話	2015.1.28
73	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その参） 第3・4話	2015.2.28
74	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その四） 第5・6話	2015.3.28
75	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第15巻 戦争の放棄（その15）	2015.4.28
76	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その五） 第7・8話	2015.5.15
77	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第16巻 戦争の放棄（その16）	2015.6.26
78	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その六） 第9・10話	2015.7.27
79	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第17巻 戦争の放棄（その17）	2015.7.31
80	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その七） 第11・12話	2015.8.27
81	田舎弁護士の大衆法律学―新・憲法の心 第18巻 戦争の放棄（その18）	2015.9.26
82	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その八） 第13・14話	2015.10.30
83	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その九） 第15・16話	2015.11.27
84	法律事務所の事務員が答えた本 ～離婚問題で悩んでいる方のために～（その1）離婚の方法 編	2015.12.16
85	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その十）―総論2「欲望」―	2016.1.28
86	田舎弁護士の大衆法律学 新・憲法の心 第19巻 戦争の放棄（その19）	2016.2.20
87	大震災・巨大津波を詠む ―5年後の再発行―（第1分冊）	2016.3.11
88	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その十一） 第17・18話	2016.3.25
89	年寄りのための童話―長生きを楽しむコツ（その十二） 第19・20話	2016.4.27
90	大震災・巨大津波を詠む ―5年後の再発行―（第2分冊）	2016.5.28

91	田舎弁護士の大衆法律学 －ある医療過誤裁判に対する疑問－ 過失と因果関係の証明	2016. 8. 10
92	大震災・巨大津波を詠む －5年後の再発行－（第3分冊）	2016. 10. 6
93	田舎弁護士の大衆法律学 新・憲法の心 第20巻 戦争の放棄（その20）	2016. 12. 12
94	田舎弁護士の大衆法律学 －岩手県奥州市の2つの住民訴訟	2017. 1. 25
95	法律事務所の事務員が答えた本 －相続税が心配な方のために－	2017. 3. 10
96	年寄りのための童話－長生きを楽しむコツ（その十三） 第21話	2017. 4. 7
97	田舎弁護士の大衆法律学 新・憲法の心 第21巻 戦争の放棄（その21）	2017. 5. 15
98	法律事務所の事務員が答えた本 －税金の基礎知識を知りたい方のために－	2017. 6. 12
99	田舎弁護士の大衆法律学－新・憲法の心 第22巻 戦争の放棄（その22）	2017. 7. 14
100	田舎弁護士の大衆法律学－新・憲法の心 第23巻 戦争の放棄（その23）	2017. 10. 10
101	田舎弁護士の大衆法律学－新・憲法の心 第24巻 国民の権利及び義務（その1）	2017. 12. 10
102	年寄りのための童話－長生きを楽しむコツ（その十四） 第22話	2018. 1. 20
103	いなべんの医療に関する本 あきらめなければならない あきらめてはならない－癌体験記－	2018. 2. 24
104	田舎弁護士の大衆法律学 岩手県奥州市の2つの住民訴訟のその後（1）駐車場用地事件	2018. 4. 30
105	田舎弁護士の大衆法律学－新・憲法の心 第25巻 国民の権利及び義務（その2） －隠れている部分を見る－	2018. 5. 20
106	いなべんの医療に関する本（黄色い本）20冊発刊記念 病を楽しむ生き方を語る（その1）心を前向きに楽しむ	2018. 9. 10
107	いなべんの哲学（第1巻）－いなべんの哲学の意義－	2018. 11. 3
108	いなべんの哲学（第2巻）－いなべんの哲学の実践－その1	2018. 12. 28
109	兄 第1話－老いの涙－	2019. 2. 10
110	兄 第2話－双葉より芳し－	2019. 3. 10
111	いなべんの医療に関する本（黄色い本） 病を楽しむ生き方を語る（その2）気付いて楽しむ	2019. 3. 31
112	法律事務所の事務員が答えた本 －平成30年の改正相続法を知りたい方のために－	2019. 4. 15
113	田舎弁護士の大衆法律学 岩手県奥州市の2つの住民訴訟のその後（2）中学校用地事件	2019. 4. 20
114	兄 第3話－天に眼－	2019. 4. 20
115	兄 第4話－小利と大信－	2019. 6. 10
116	兄 第5話－男泣き－	2019. 8. 10
117	いなべんの哲学（第3巻）－いなべんの哲学の道歌集－その1	2019. 10. 31
118	兄 第6話－夢の懸け橋－	2019. 11. 10
119	兄 第7話－無学歴の学問－	2020. 1. 20
120	法律事務所の事務員が答えた本 －民法（債権法）改正（2020年4月1日施行）を知りたい方のために－	2020. 3. 15

121	いなべんの哲学（第4巻） いなべんの哲学の道歌集—その2—	2020.3.31
122	兄 第8話—いい時いい人（その1）—戦争と父母—	2020.4.30
123	田舎弁護士の大衆法律学—新・憲法の心 第26巻 戦争の放棄（その24）	2020.6.20
124	田舎弁護士の大衆法律学—新・憲法の心 第27巻 戦争の放棄（その25）	2020.9.20
125	都会の弁護士と田舎の弁護士 —破天荒弁護士といなべん—	2020.10.10
126	田舎弁護士の大衆法律学—新・憲法の心 第28巻 国民の権利及び義務（その3）	2020.11.10
127	いなべんの短編集 第1話 —軟着陸—	2020.11月
128	いなべんの哲学（第5巻） 楽しむとは、どういうことでしょう	2021.1.10
129	田舎弁護士の大衆法律学—新・憲法の心 第29巻 国民の権利及び義務（その4）	2021.2.10
130	いなべんの短編集 第2話 —白紙の答案—	2021.2.1
131	兄 第9話 いい時いい人（その2）—内助の功—	2021.3.31
132	福島原発事故と老人の死 —損害賠償請求事件記録—	2021.5.31
133	いなべんの短編集 第3話 —ある鑑定記録集—	2021.5.1
134	いなべんの短編集 第4話 —飯金工の一言—	2021.7.1
135	いなべんの哲学（第6巻） 楽しく生きるための相続—法律と気持—	2021.8.20
136	いなべんの短編集 第5話 —一滴の雨垂れ—	2021.8月
137	年寄の心得集・年寄の進化論（その1）	2021.9月
138	法律事務所の事務員が答えた本 楽しく生きるための相続—法律と裁判によらないで決める方法—	2021.10.30
139	いなべんの短編集 第6話 —人生快なり—	2021.10月
140	いなべんの短編集 第7話 —60歳から黄金期—	2021.11月
141	年寄の心得集・年寄の進化論（その2）	2021.12月
142	いなべんの哲学（第7巻） 楽しく生きるための離婚 —バックギアから前進ギアへ—座談会	2021.12.25
143	兄 第10話 —青虫から蝶に—	2022.1月
144	80歳記念本❶ いなべんの哲学（第8巻） —年寄りの心得集と進化論—	2022.2.20
145	80歳記念本❷ いなべんの哲学（第9巻） —長生きを楽しむコツ—	2022.4.10
146	80歳記念本❸ いなべんの哲学（第10巻） —人生100年時代の年寄りの生き方—	2022.5.20
147	心に残って、忘れられないことば（その1）—患者を体験しての巻—	2022.8.1
148	心に残って、忘れられないことば（その2） —コロナとウクライナ戦争と憲法9条の巻—	2022.9.1
149	政治を憂える —政治家不信—	2022.10.10
150	心に残って、忘れられないことば（その3）—生き方を決めてくれたことばの巻—	2022.11.1

151	老人生活の自立と支援 ー老人生活を支援するネットワークー	2022.12.1
152	年寄りのための童話ー長生きを楽しむコツ(その十五) 第23・24・25話	2022.12.29
153	田舎弁護士の大衆法学ー新・憲法の心 第30巻 戦争の放棄 (その26)	2023.1.31
154	兄・中学生物語 第1話ー小学6年生の決断ー	2023.4.20
155	80歳記念本㊦ 地方弁護士の役割と在り方(第1巻) 地方弁護士の商売ー必要悪から必要不可欠な存在へー	2023.4.25
156	80歳記念本㊦ 地方弁護士の役割と在り方(第2巻) 地方弁護士の社会的使命ー人命と人権を擁護するー	2023.4.25
157	80歳記念本㊦ 地方弁護士の役割と在り方(第3巻) 地方弁護士の心の持ち方ー知恵で統合をー	2023.4.25
158	年寄りのための童話ー長生きを楽しむコツ(その十六) 第26・27・28話	2023.5.20
159	兄・中学生物語 第2話ー中学1・2年生のあんこ生活ー	2023.6.8
160	兄・中学生物語 第3話ー中学3年生の行商生活ー	2023.7.20
161	いなべんの哲学(第11巻) 実際に役立つ哲学 ー今日一日の生き方を考えるー	2023.8.31
162	田舎弁護士の大衆法学 ー円満相続ー	2023.10.10
163	いなべんの哲学(第12巻) 倫理と法律	2023.11.1
164	いなべんの哲学(第13巻) 自立する老人生活を支援するネットワーク	2023.12.20
165	いなべんの哲学(第14巻) 老人生活支援ネットワークからの情報(第1回)ーパートナーを見付けましょうー	2023.12.20
166	田舎弁護士の大衆法学ー円満相続のススメー	2024.2.10
167	いなべんの哲学(第15巻) 倫理に基づく法律	2024.3.20
168	いなべんの哲学(第16巻) 欲望と倫理と法律	2024.4.20
169	いなべんの哲学(第17巻) 倫理と法律の理念の実践	2024.6.20
170	円満相続をしてあげたいのです いま、特に解決してあげたい相続問題(第1話) 誰もいない遺産	2024.6.25
171	いなべんの短編集 第9話 ー尊敬する法律家からの手紙 降伏のススメー	2024.7.1
172	いなべんの短編集 第10話 ー無法松が残した貯金帳の行方ー	2024.8.20
173	円満相続をしてあげたいのです いま、特に解決してあげたい相続問題(第2話) 相続不動産の登記の義務化	2024.8.31
174	円満相続をしてあげたいのです 相続開始前にしておくこと(その1) 生前贈与	2024.8.30
175	円満相続をしてあげたいのです 相続開始前にしておくこと(その2) 死因贈与	2024.10.31
176	いなべんの短編集 第11話 ー田舎弁護士の財産の行方ー	2024.10.31
177	円満相続をしてあげたいのです シリーズ ー円満相続への案内本ー	2024.11.26
178	円満相続をしてあげたいのです シリーズ ーこれだけは知らせたい相続問題の解決方法 法定相続と贈与契約ー	2025.1.20
179	円満相続をしてあげたいのです シリーズ ー円満相続をしてあげるための手本ー	2025.2.20
180	生き方のハカリ(1)ーその意義と理念ー	2025.6(予定)

181	生き方のハカリ（２）－世の中で使われている生き方のハカリ－	2025. 7(予定)
182	生き方のハカリ（３）－田舎弁護士が使っている生き方のハカリ－	2025. 8(予定)
183	警鐘（１）「公共の福祉」ということば	2025. 9(予定)
184	警鐘（２）「社会正義の実現」ということば	2025. 10 (予定)
185	警鐘（３）「安全保障」ということば	2025. 11 (予定)
186	田舎弁護士の駄弁本概説	2025. 12 (予定)



第3回研修会のご報告と第4回研修会のご案内

令和7(2025)年6月14日(土)午前10時から正午までの2時間、コロナ問題解消後の第3回研修会を仲間の皆様と楽しむことができました。ご多忙のところ、お集まり下さった仲間には、心から御礼申し上げます。

「出席したかったが今回は事情が許さず出席できない」と態々^{わざわざ}ご連絡下さった方も大勢おられましたが、お手数をおかけしてしまい申し訳ありませんでした。心からお詫^わび申し上げます。

第3回研修会の研修内容は、今月号のこの事務所便りに同封しましたのでお目を通して戴ければ幸甚です。ことばについて、勉強しようという目標で、第1「生き方のことば」、第2「憲法のことば」、第3「法律のことば」、第4「相続のことば」と4部構成の予定でした。

2時間では話し切れないとは思っていましたが、第1部の生き方の話の途中までで2時間は経ってしまいました。続きは、第4回研修会(令和7年8月30日)で、それでも足りなければ第5回研修会(令和7年11月22日)でと考えています。

第3回研修会では、第1部「生き方のことば」のうちの「余命^{よめい}」ということばを深めるだけで、ほぼ2時間は経ってしまいました。

「余命^{よめい}」という一つのことばについてだけでも、しゃべり出すと次から次へと関連^{れんそう}することが連想^{れんそう}してきます。どんどん話しているうちに、それに関連して他のことが思い浮かんでくるのです。どこで切ったらよいか分からないくらい言いたいことが出てくるのです。

「こんなことでは、研修会にならない」と反省していたら、普段から尊敬している仲間が「私達は、受験生ではないから、これを覚えなければならないなどという暗記しなければならないことなどない。知識を教えられるよりも今日の^{おほ}ような生き方を教えてもらうのが一番ありがたい。いい話でした」と言い、態々^{わざわざ}寄って来てくれました。

嬉しくなりました。確かに受験生に試験に合格してもらうための研修会ではありません。「人生はこう生きた方がよい」ということを仲間を確認し合いたいための研修会です。このことばで改めてこの研修会の進むべき方向を教えてもらえた気がしま

した。

「91 歳になりました。法律の話は難しいので分からないと思いながらも、亡くなった主人は先生の大ファンだったので、先生の顔だけでも見たいと思って来たら、私にも分かる話だったので楽しかった。ほんとうに来てよかった」と言ってくれました。

これも嬉しいおことばでした。「誰にでも分かる話をしたい」というのは私の願いです。このことばをもらってそれができたような気がして、格別に嬉しくなりました。そのおばあさんのご主人は、優秀な事業家でした。そのご主人を「経済の先生」と呼んで、事業の在り方を教えてもらっていました。この研修会の場に、是非いてほしかった人でした。奥様に会えて、涙が出ました。

それにしても今の 90 歳は若いですね。ビックリです。2時間熱心に聴いてくれた上、このような感想を言ってくれるのですから、素晴らしいと心の底から感心してしまいました。

「次回も必ず出席します。先生、お身体にくれぐれも気を付けてください」と言って、ニコニコして帰って行きました。ご苦労様でした。今回の出席者の中では最高齢だと思われます。一番若い人は、高校 1 年生の女学生でした。2回連続出席で「次回も出てもいいですか」と言って帰りました。これも嬉しいです。10 代から 90 代の女性にもてているようでいい気分でした。

近くにいながらいろいろな交信手段ができているため、電話やメールや手紙でのやりとりとなり、直接顔を合わせることが少なくなった今の世の中において、研修会の本当の目的は、たまには直接顔を合わせて、無事を確認し合うことにあると確信しています。それこそ『田舎弁護士の研修会』の本当の目的です。

次回第 4 回は、令和 7(2025)年 8 月 30 日(土)10:00～正午まで、一関文化センター小ホールで開催します。早目にスケジュールを調整して顔を見せに、そして顔を見に来て下さい。お会いするのを楽しみにお待ちしております。『朋あり、遠方より来たる。楽しからずや』です。

